

羅針盤

介護福祉士

らしんばん

No.84

2021年11月発行
一般社団法人岡山県介護福祉士会
〒700-0807
岡山市北区南方2丁目13-1
岡山県総合福祉・ボランティア・
NPO会館「きらめきプラザ」7階
TEL: 086-222-3125
URL: <http://www.okayama-kaigo.jp>
印刷編集協力: 友野印刷



えがお

コロナ禍で利用者様、職員共にマスクをつけての生活が続いています。お互いに表情が読み取りにくい状況ですが、目が合うと今までと変わらずの笑顔を見せてくれます。色々と制限の多い生活の中で気が滅入ることもありますが、その笑顔のおかげでまた頑張っていこうと思えます。

小規模多機能型居宅介護 和が家 甲加 勇樹

2021年度

社員総会&タウンミーティング報告

「日本介護福祉士会の現状と未来に向けての活動について説明会」

令和3年6月25日（金）、岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館 きらめきプラザ（岡山市北区南方2-13-1）にて、2021年度社員総会&タウンミーティング報告「日本介護福祉士会の現状と未来に向けての活動について説明会」が開催されました。新型コロナウイルス感染防止のため、当会社員総会は例年とは異なり、参加者を最小限にできるよう委任状による決議を行い、旧年度から新年度にかけての計画や予定を発表しました。滞りなく決議ができ、新年度をスタートできました。

社員総会の後、公益社団法人 日本介護福祉士会の及川ゆりこ会長とのオンラインによるタウンミーティングには、会員関係者約20名とオンラインの参加者もありました。及川会長からは、今後の日本介護福祉士会としての取り組み課題の一つである「介護福祉士の専門性とは何か」をテーマに挙げ、利用者の生活をより良い方向へ変化させるために、根拠に基づいた介護の実践と共に、環境を整備することと、その定義を示されました。具体的には介護過程に基づく根拠に基づいた介護の実践や中核人材・介護職のリーダーが行う指導・育成スキルの中にも介護福祉士としての専門性があるものと語られました。慢性的な介護人材の不足に対して、これからアクティブシニアや外国人材、介護助手などの多様な人材の参画を含めて、実践の場における介護の指導育成は介護福祉士が担うべき役割であると、そのための質の向上や研鑽に寄与できる団体運営を目指したいとビジョンを述べられました。そのための運営体制の改革について臨時総会への議論の準備をしているとのこと。

最後には及川会長から、岡山県介護福祉士会として考えていることや日本介護福祉士会に求めていることなどについて意見を求められました。安達会長を始め、参加した会員から意見を挙げました。

具体的には、会員拡大に向けてはワーキングチームを立ち上げて、介護福祉士養成校にはたらきかけて、入会促進活動に取り組み成果を出していること、今後はその活動を施設にも拡げていくが、入会方法の簡素化を検討できないかと意見を挙げました。また小規模な施設に対して介護福祉士会の存在や活動に触れる頻度を高める課題を報告しました。またキャリア形成になる研修会などへの参加を訴え、入会をPRしているが、上司や施設長の理解が後押しされるように関係づくりをする必要を感じており、そのために案内パンフレットなどを見直していることを報告しました。



その他には、

岡山県の最低賃金や他産業の賃金相場なども踏まえ、介護福祉士資格者の価値を高め介護報酬にて評価される仕組みにもっと取り組んでいけないか。

「介護職員」と言ってもその人材層は多様化しており、(1) 介護福祉士の日本人、(2) 介護福祉士の外国人、(3) 介護福祉士以外の日本人や外国人などがおり、それらの職業能力と賃金評価基準の在り方の指針が職能団体の立場としても必要ではないか。

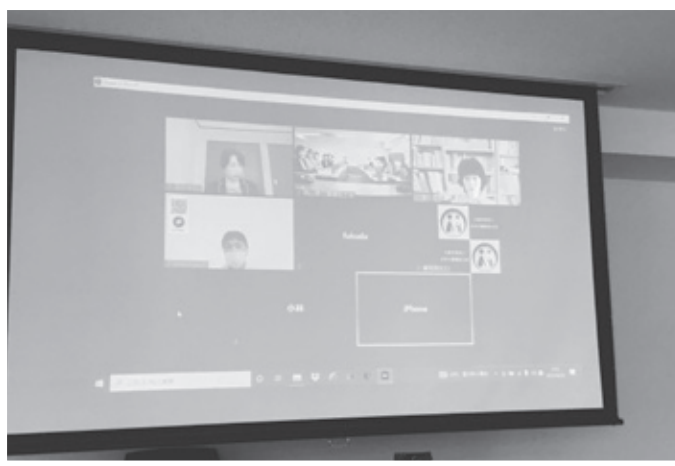
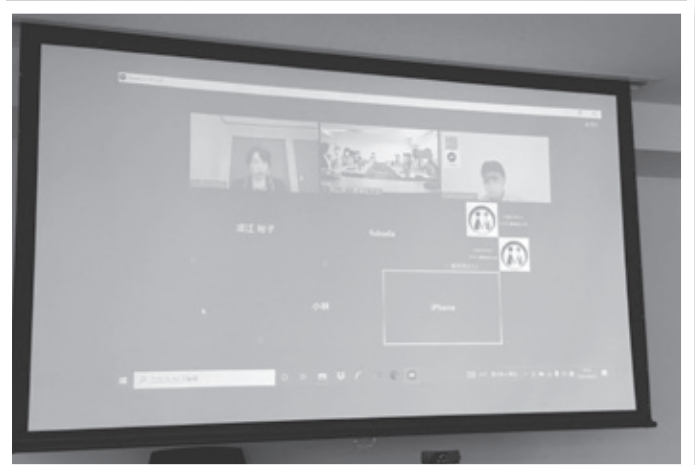
コロナ禍で会員同士のコミュニケーションや研修会等にオンライン会議システム (Zoom) などの活用のメリットを感じているが、介護現場のITリテラシーや環境設備が不十分で、参加率がふるわない課題がある。IT知識を身に着ける研修会を行い、参加ハードルを下げる試みをしてはどうか。

介護福祉士会入会率を高めるためには、所属施設の上層部からのはたらきかけを軸とした発信の仕組みが有効ではないか。さらにSNSの活用や公式アカウントを活用することは若者層には有効ではないか。

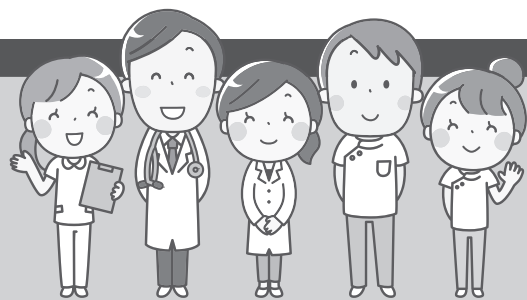
介護福祉士の業務独占領域を設けることやどのような研修修了を評価していくかについて、日本介護福祉士会の現在の議論の動向についてなどの質問や意見がありました。

今回のミーティングを通じて、様々な視点をもって介護福祉士会の普及や推進を図っていくべき方向性がよくわかりました。またこのような機会により多くの会員にご参加いただけるよう情報発信して参ります。

(岡山地区：広報・河崎)



研修会報告



「第5回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会」に参加しました。

令和3年7月18日(日)、おかやま西川原プラザ(岡山市中区西川原255番地)にて、「第5回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会」が開催されました。岡山県介護福祉士会としては運営実行委員として準備会議等から参加し、開催当日においても、タイムキーパーやオンライン上での参加者のために進行を補助するなど係員としてご協力させていただきました。

新型コロナウイルスの影響を踏まえ、今大会のテーマ「新型コロナウイルス 医療・介護・福祉の現場の話をしよう」に沿った全15事例が発表されました。オンライン開催という初の試みの中、基調講演では岡山県医師会会長 松山正春 先生から、岡山県下における感染症の状況やワクチン接種に係る動きなどの発表がありました。

またシンポジウムでは、当会からもシンポジストとして広報委員長の河崎崇史さんが登壇し、他の団体代表の皆様と共にコロナ禍における活動や考えを発表されました。

岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会



「新型コロナウイルス 医療・介護・福祉の現場の話をしよう」
～現場が抱えている問題点や取り組み、成功例等の情報発信・共有～

<開催趣旨>

岡山県では、新規感染者は落ち着いていますが、病院や施設でもクラスター発生などのリスクは今後も警戒をしなければなりません。第三波により、岡山県も一時は医療緊急事態宣言が発出されるなど、危機的な状況であったことを忘れることはできません。今後も医療介護分野ではストレスが大きい状態が続くと思われます。

このような中、岡山県地域包括ケアシステム学会は、例年開催していた学術大会の開催を見合わせておりました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染により、県民の暮らしや、介護医療・介護・福祉の現場で働く人々の生活のあり方や働き方も変化を強いられる状況となっています。私たちが住まい医療・介護・生活支援が一体的に提供される地域づくりを目指して、その思い・手として、医療・介護・福祉の現場で働く人々がこの新型コロナウイルスにより抱えている問題点や取り組み、成功例の情報を共有できる場を提供することが急務と考え、今回の学術大会を開催することとなりました。

開催日時 2021年7月18日(日)10:30～15:30
開催形態 オンライン(ZOOM)
主催 岡山県地域包括ケアシステム学会
共催 岡山県介護保険実務団体協議会

1



シンポジストとして登壇（河崎 崇史）

昨年度、広報誌 羅針盤を通じて、コロナ禍でも明るく前向きにご利用者のケアに尽力されていた事例や、執行部に行なったコロナ禍が続く中でも介護福祉士としてどのように支援したかのアンケート報告をまとめさせていただき発表いたしました。会員の皆様のおかげで、ご利用者の生活に寄り添った視点で他の専門職とは異なる提言ができました。



係員として参加（松本 龍二）

コロナ感染対策に関する取り組みの内容や他職種の演題を拝聴し、地域のご利用者の課題を解決するには、様々な他職種や病院や施設との連携の必要性を実感いたしました。

またZoom操作補助の係員を通して、Zoom研修開催時の基本操作や注意点や、Zoom研修の将来性について理解でき、とても良い経験をすることができました。

今回の経験を活かし、より学術根拠に基づいた介護福祉士としての知識・技術を研鑽することで、多職種他団体とも互いの専門性や考え方等の共通言語をもち連携を図れるはずです。そのような成長を目指したいと思います。今後も会員の皆様の学会参加等への応募を期待されていると思いますので、ぜひその際には前向きにご協力の程よろしく御願いたします。



研修/イベント報告



『岡山県介護福祉士会 災害支援ボランティア研修』を開催いたしました。

令和3年7月7日（水）きらめきプラザにて、『災害支援ボランティア研修～介護福祉士としてできることを一緒に考えよう～』と題して研修を開催いたしました。今回はコロナ禍ということもあり、岡山県介護福祉士会災害支援ボランティアリーダー加納忠紘とサブリーダー水内誠が講師を務めさせていただきました。

当日は、自施設にて災害支援について考えられている方や災害支援の勉強に興味がある方など6名の方の参加がありました。今回の研修では、身近なところでの、自分自身が災害について考えることから、避難所での目線などをグループワークを通して、みんなで一緒に考え、実際に現場で、介護福祉士ができることを共有することができたと思います。

岡山県介護福祉士会といたしましては、毎年、災害支援について、会員の皆様と一緒に考え、常に支援ができる組織づくりをしていきたいと考えております。来年度以降につきましては、様々な災害支援について分野に分けて講師の先生をお招きしつつ、会員の皆様で災害支援について、一緒に考えることのできる研修を開催していきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

（災害支援ボランティアリーダー 加納）



「リモート研修勉強会（初）」を開催しました。

令和3年8月10日（火）、岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館 きらめきプラザ（岡山市北区南方2-13-1）にて、「リモート研修勉強会」を開催いたしました。岡山県介護福祉士会としては初開催のテーマでした。長期化する新型コロナの影響を踏まえ、各会員の職場でも業務調整やオンライン対応への動きに急に変わるなど、何かとご苦勞をされているかと思います。そこで当会としても、今後の研修活動でリモート開催を推進すべく企画いたしました。講師にアークリード 代表取締役 岩田成矢先生をお迎えし、13名のご参加をいただきました。この勉強会は、今後、岡山県介護福祉士会のリモート研修会にサポーターとして参加できる方を対象とし、各地区より選出された方に受講いただきました。

当研修では、Zoomの基本的操作、Zoomを活用した研修会での講義の仕方やグループワークの仕方などを学びました。質問しやすい雰囲気の中、笑いあり、真剣な眼差しありで1回目の研修を終えました。2回目は10月27日に行う予定で、具体的な研修内容を想定してリモート研修が行えるようになることを目標としております。



<参加者の感想 岡山地区 田中 秀樹さん>

研修に参加者の感想からもわかりましたが、リモートの環境を設定するまでにつまづいてしまう人が多いということです。ログインできないなど、最初のスタートラインに立つことが難しいと感じてしまう人が多いように感じました。ですが、それさえうまく行うことができれば、後の設定や画面の表示などの調整はとてもスムーズに行うことができたように思います。Zoomを使用したディスカッションの方法やチーム分けなど、リモート研修に活かせるような様々なツールの基本を教えていただきました。コロナ禍が続く中で、リモートでの研修や会議を行うということで様々なメリットがあることを改めて実感しました。

今回の勉強会を活かし、なるべく早いリモート研修会の実現に努めて参ります。詳細は当会からの発信物にてお知らせいたします。今後も、皆様のお役に立つ研修活動に努めて参ります。

（勉強会企画担当 三宅）

第6回おかやま介護グランプリ 2021 本選出場チーム決定！

令和3年11月11日（木）、岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館 きらめきプラザ（岡山市北区南方2-13-1）にて、「第6回おかやま介護グランプリ2021」を開催いたします。本年5月から出場チームを募集し、申し込みのあった14チームから予選を勝ち抜いた5チームが、いよいよ本選となる大会当日を迎えます。

本選出場チーム（順不同）

- ・チーム岡山県立倉敷中央高等学校
- ・チーム岡山後楽館高校
- ・チーム社会福祉法人報恩積善会
- ・チームたちばな苑 済生会ライフケアセンター
- ・チームまこと会 かもがわ荘



※実技内容を審査員（主任技術指導者、介護福祉士国家試験実地試験委員有資格者）が審査します。

※入賞チームにはトロフィー、賞状などをお渡しします。

※本選の様子は動画を作成しWEB上で後日公開いたします。

このグランプリでは、現場での介護技術を広く公開することで、介護の仕事への理解促進を図ることを目的に開催いたします。参加した選手・ご来場いただいた皆様とともに、介護とは何かを考え、介護を支える土壌を育み、また、参加者の自己研鑽や理解を高めること、チームで出場することで介護職同士の連帯感を高めることを目的としています。

今大会はコロナ禍でもできる開催方法を検討し、「排せつ介助部門」「入浴介助部門」「食事介助部門」の3部門から一つ選び介助の様子を動画で投稿し、予選会をする試みとなりました。

どのチームも、素晴らしい介護技術を見せていただき、介護の深みを実感すると共に、日々我々が行っている介護についての魅力を再発見できたような気がしました。

甲乙つけ難い予選チームの中から、厳正な審査により5チームを選ぶことができました。

本選に出場されるチームにおかれましては、予選で惜しくも涙を飲んだチームの分まで、総合優勝を目指して健闘していただきたいと思います。大変期待しております。

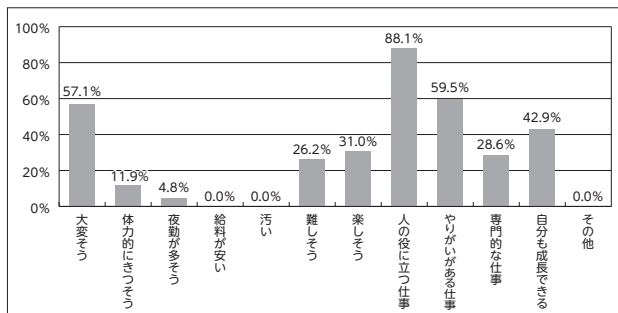
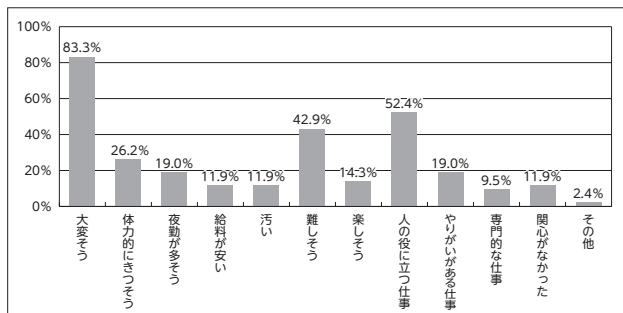
（大会実行委員長 齋藤）



井笠地区活動 介護出前講座に行ってきました！

井原市の中学校で介護出前講座を行いました。車椅子、アイマスクを用いた視覚障害、トロミ茶試飲の体験を実施しながら、同時に介護の魅力も伝えてきました。

また、アンケートを取らせて頂き、学生たちの福祉・介護の仕事について理解を深めてもらったのか、印象の変化を調査してみました。



出前講座を受ける前の、福祉・介護の仕事に対する印象（複数回答）

出前講座を受けた後の、福祉・介護の仕事に対する印象（複数回答）

福祉・介護の仕事についての理解度では、理解できたが81.0%、まあまあ理解できたが19.0%で理解を深めてもらったと思います。

福祉・介護の仕事は、「大変そう」「難しそう」という印象が強かったのですが、出前講座を受けて「人の役に立つ仕事」「やりがいがある仕事」へと印象が大きく変わった様でした。

大変そう 83.3%から 57.1% (26.2% 減少)

難しそう 42.9%から 26.2% (16.7% 減少)

人の役に立つ仕事 52.4%から 88.1% (35.7% 増加)

やりがいがある仕事 19.0%から 59.5% (40.5% 増加)

介護者体験を通し、人と関わり思いやることが大切であると実感してもらえました。トロミ茶試飲体験や車椅子体験では、何をするにしても、目を合わせたり、相手の目線に合わせたりという、ノンバーバルコミュニケーションが大事だと感じてもらったようです。また、車椅子体験とアイマスク体験では、声掛けや話をするバーバルコミュニケーションが大事であると感じてもらえたようでした。そして、実際に体験することで介護する側も、お年寄りの目線になり様々な視点から情報を集め専門的に考慮していくことの難しさも実感してもらえたようでした。

ディスカッションより、お年寄りを敬う気持ちを持ち生活のお手伝いができる福祉・介護の仕事はとてもいい仕事だと思ってもらうことができました。

また、僅かですが、「楽しそう」という印象が14.3%から31.0%へ増え（16.7%増加）、

新たに「自分も成長できる」という印象も持ってもらえることができました。実際に、介護の仕事をする中で、お年寄りから人生経験の話を聴かせてもらったりします。その中で、楽しかったことや辛かったことの思い出等、色々なお話を聴かせてもらったりする機会があります。また、生活歴や性格、その人らしさからケアを考慮していく内に、自分の経験値として人間的に成長できる瞬間が他職業に比べて多いことが「仕事が楽しい」と感じることもできるのかもしれない。また、学生たちから意見を頂き、介護職員が忘れかけていた思いにも気付かせてもらう貴重な体験にもなりました。

次世代の人たちに向けて、介護の仕事が選択肢のひとつになってもらうことを願うばかりです。

（井笠地区：広報・岩本）



みんなの広場 ほっとステーション

WIDE
ワイド



～わたしのコロナ禍での楽しみ～

昨年からコロナ禍に入り、今まで自由に遊んでいた娯楽関係にも色々と制限が掛かるご時世となりました。

そんな中での僕の楽しみは、音楽やトークの配信ライブ鑑賞です。

今までにも利用したことは有りましたが「現地に勝るものはない」と思い、割りと利用には消極的でした。

しかし今はコロナ禍で、主にイベントが開催される首都圏には中々行くことが出来ませんし、そもそもイベント自体が延期や中止になることも多い現状です。

その中で「無観客配信ライブ」という方式が確立されました。

首都圏も地方も関係無く平等に、そして感染を気にせず安全に楽しめるため、気軽に利用しています。

さらに「アーカイブ配信」の有る場合は、配信当日が仕事等でリアルタイムに視聴出来ない時も、後日何度でも視聴出来るため、重宝しています。

一方でリアルタイムに配信ライブを楽しむ方法としては、チャット機能が有ります。

リアルタイム視聴しながらチャットに書き込むことで、配信している演者や他の視聴者と雰囲気共有出来るため、コロナ禍前の現地で見ると同じ楽しさには及ばないものの、コロナ禍の現状と一緒に分かち合う気持ちが芽生え、一体感を感じられます。

最近では、感染対策をしながら有観客&配信ライブという方式も戻ってきていますが、現地参加者は声が出せない等色々な制限が付くため、地方在住の僕はまだまだ配信ライブのお世話になりそうです。

コロナ収束には、まだまだ時間がかかると思うので、財布と相談しながら有料配信ライブを利用して、仕事のストレス解消や息抜きとして楽しみたいと思います。

(ペンネーム：にっちょ)

初めは友人に誘われ、行った日帰りキャンプ。今や週一で行くほど、ハマっています。キャンプ場に出向き、自然の中で焚き火をしたり炊飯したりするだけで、楽しくて癒されます。特に、焚き火は炎を眺めていると、現実を忘れ、時間も気にせず無になれます。

そんな空間と共に、お気に入りのキャンプ道具を使い、炊飯することも楽しみの一つです。スキレット（鉄鍋）やバーナーなど使っていくうちに、愛着が湧きキャンプでは欠かせない相棒へと育っていきます。そんな道具で作って食べる、何の変哲もない肉やパン、時にはカップ麺などのインスタント食品でも最高のご馳走となります。また、川のせせらぎや鳥の囀り、自然の中で過ごすひとときは最高の気分転換になります。



キャンプというとハードルが高く感じますが、

ファーストフードをテイクアウトして公園などでピクニックするだけで、ハンバーガーや飲み物も一味違う物へと変わって良い気分転換になると思います。また、屋外なのでソーシャルディスタンスも保て一石二鳥なのでお試してはどうでしょうか？

(特別養護老人ホームみずき 岩本 侑太)



私は、休みの日には色々な所に出かけていましたが、コロナ禍で出掛けられなくなったので、手作りをしています。去年は、ピーマン味噌を13キロつくり親戚や友達に配りました。小さく切ったピーマンを味噌、砂糖、醤油、米麴で煮詰めます。ピーマンは、友達から頂いたものです。また、家の庭に自然に生えている雪の下という葉で、

佃煮をつくりました。ご飯によく合うんです！職場では、出掛けられなくなった入居者さんと一緒に、園で育てたホウレン草、ニンジン、白菜、カボチャ等を使い、スイーツを作っておやつにお出ししています。ホットケーキミックスは優れもので、どんなケーキでも作れます。そして、粉寒天と、ゼライスがあれば大抵の物はつくれます。タケノコが旬な時には甘く炊いて、ケーキの生地に練り込み、上に薄く切ったタケノコを乗せて焼いたら出来上がり！あまりスイーツに向かないと思われるものを使ってつくります。オクラケーキも綺麗でした。



介護の仕事をする前は着物の着付け講師を10年していました。平面の帯で立体の帯結びをします。基本はありますが、着せる人や着物や帯の色柄で、合う様に結びます。成人式は、朝3時から、気がつくまで10時まで、ずっと着せ続けていても疲れません！好きな事をしていると時を忘れますね。今年はコロナ禍で成人式が延びていますが、毎年振袖を着付けに行っています。職場では、お正月に入居者さんに着物をお着せして、写真を撮り喜んでいただきました。寝たきりでも、着物が着せられます。着物を着ると、シャキッとされます。私も着物を着て出掛けられる日が来たら良いなあと思っています。

実は体育会系で、ゴルフとソフトボールをしています。去年は試合が、秋に一回あったけでした。今年の練習は始まっています。夜8時からなのですが、残念ながらまだ参加できていません。オリンピックソフトボールの観戦券も当たっていたのに…。

なんでも興味を持って兎に角やってみるんです！

(養護老人ホーム 偕楽園 佐藤 ひづる)

数年前から突然始めた「山登り」に上手くはまっています。何が楽しいのかと始める前は思っていました。初めて登った山は「大山」。中学で登ったことはありましたが、天候不良の為途中下山。

当日の天気は快晴。途中の珍道中は忘れましたが、頂上から見渡す景色は鮮明に覚えています。そして、言葉に言い表せないくらいの「達成感」や「充実感」。そこから道具を揃えたり、ウェアを揃えたり…山の道具は高い！道具を揃えるうちに、「フリーズドライを使った山ご飯」や「山コーヒー」を楽しむようになりました。

ふと思いました。災害時にも役立つのでは…と。それ以来、フリーズドライ数日分を災害用として常時ストックするようになりました。趣味がきっかけでまさか災害意識が高まるとは思いませんでした。何がきっかけになるか分かりませんね。

(四季の里 山本 宜正)

✉ 県介護福祉士会からのお知らせ

◇会員登録について

お引越しや転職等で以前と住所や勤務先が変わられている方、変更届のご提出はお済みでしょうか。送付物が戻ってくるケースがございます。今一度、ご確認をお願いいたします。

◇ウェブサイトのリニューアルについて

この春に新ウェブサイトの公開を予定しておりましたが、コロナ禍で公開が遅れてしまい、大変申し訳ありません。間もなくリニューアルオープンとなります。

公開日はホームページでお知らせいたします。



「青年隊 晴れる家」からのお知らせ

晴れる家メンバー募集中です！

私たち「晴れる家」は、介護福祉士会の若い世代が中心となり、介護福祉士のPR活動を行っています。研修や交流会などの企画、実施も行っており、若い世代が職場ではなかなか味わえない経験ができます。また同世代の繋がりを作れる場にもなっており、職場以外にも相談できる仲間ができます。

コロナ禍でお互い向かい合っただけの活動は行えませんが、こんな時だからこそその活動を行っています。詳しくは晴れる家Facebookをご覧ください。

私たちと一緒に活動しませんか？

ご参加お待ちしております！



【お問合せ・申込先】

岡山県介護福祉士会 事務局

TEL：086-222-3125 FAX：086-222-6780 e-mail：okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp

※電話・FAX・e-mailにて会員番号、お名前、連絡先をお知らせください。

晴れる家よりご連絡いたします。

ほっとステーションへの投稿をお待ちしています

あなたの職場の様子や利用者さんとの日々のやりとりを教えてください。同じ“介護”で働く皆さんが共有できる、そんな情報をお待ちしています。



編集担当

岡山県介護福祉士会
広報委員会

河崎	崇史	早見	潤一
吉川	信一	内藤	佑弥
甲加	勇樹	岡本	奈々
池田	紀恵	菅原	摂子
西本	光男	河島	友美
磯田	明枝	小山	政典
綱嶋	浩子	佐藤	あすか
池田	和彦	岩本	侑太